YOSHIDA

Yoshida Group 120th

120th YEAR ANNIVERSARY CAMPAIGN

ヨシダグループ 120周年記念キャンペーン

キャンペーン期間

2026.10.21wed ▸ 2027.1.20wed

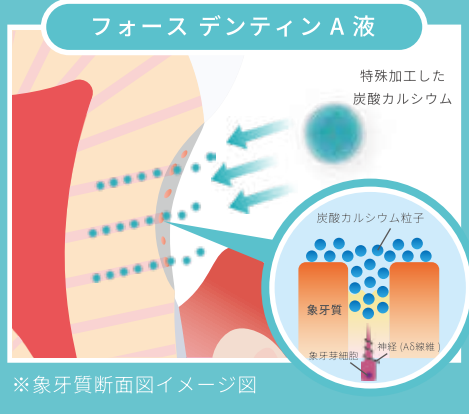
THE 4th DENTIN

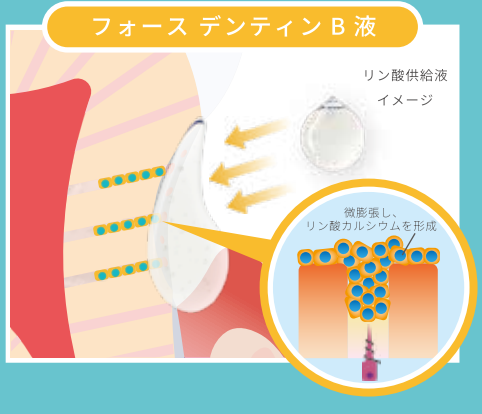
フォースデンティン

歯科用知覚過敏抑制材料
歯科用シーリング・コーティング材



一般的名称：歯科用知覚過敏抑制材料（歯科用シーリング・コーティング材料）
販売名：フォース デンティン　認証番号：305AGBZX00005000（管理）
製造販売元：株式会社メディボ　TEL：06-6673-5756





※象牙質断面図イメージ図

＼象牙細管より小さい粒子の／

炭酸カルシウム

×

＼すみやかな歯面石灰化を促す／

リン酸供給液

フォースデンティンキャンペーン 注文書

コードNo.	商品名	注文数
445096	フォースデンティン 10mL（5mL×2）	

お取引歯科ディーラー名

貴歯科医院名

ご住所

Tel.　（　）　Fax.　（　）

ご提供いただきました個人情報につきましては、弊社事業に関連する情報、製品に関する情報の提供等、弊社インターネット ホームページに掲載した個人情報保護方針「利用目的」の範囲内で利用させていただきます。

販売元　株式会社ヨシダ　〒110-8507 東京都台東区上野7-6-9　Tel.0800-170-5541（コンタクトセンター）

(01)02747937024638
C02892/2026 年 10 月 /@1/ 新

使用方法

※症状の程度により、繰り返しの塗布を推奨しています。

混和塗布法

※操作時間：15 分以内を想定

Point 歯面乾燥 不要！

A 液・B 液を
同量ずつ混ぜる



練和時間目安：10 ～ 20 秒

歯面清掃後の患部に
こすり塗りする



塗布時間目安：5 ～ 20 秒

綿球などで拭き取り、
または洗浄する



CHECK ラバーカップを使用した塗布

手早く広範囲にしっかりと
すりこむには、
ラバーカップ等での
塗り広げも有効です。



（混和塗布、個別塗布どちらでもラバーカップを使用出来ます。）

個別塗布法（従来法）

Point 歯面乾燥 不要！

歯面清掃後
適量の A 液を患部に塗布



余った A 液を
綿球などで拭き取り



適量の B 液を
患部に塗布 ※



余った B 液を
綿球などで拭き取り



※浸透させ、A 液 B 液の反応を待つために B 液塗布後 1 分保持すると、より安定した効果が期待できます。

CHECK 使用方法を
動画で詳しくチェック！

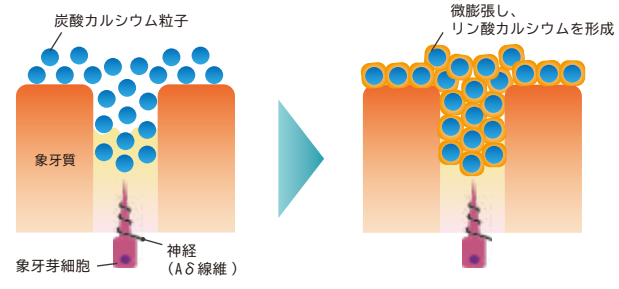
混和塗布時　基本使用方法　ラバーカップ使用時

POINT

- ☑ 2 液を混ぜて塗布 OK
- ☑ 塗布前の歯面乾燥不要
- ☑ 光照射不要
- ☑ 治療後すぐ飲食 OK
- ☑ しっかりこすり塗り

象牙細管の封鎖性と耐久性

微細な炭酸カルシウムが象牙細管内奥深くで石灰化し、歯と同じ主成分のリン酸カルシウムが形成・膨張するためブラッシングやうがいでも取れにくいことが期待できます。また、石灰化に有利な弱アルカリ性です。

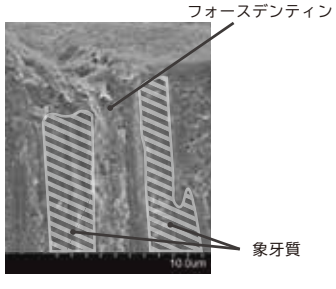


※象牙質断面図イメージ図

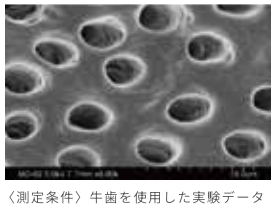
象牙細管断面図

象牙細管の奥まで入り込み、
象牙質との境目がわかりにくい
ほど緊密に封鎖します。

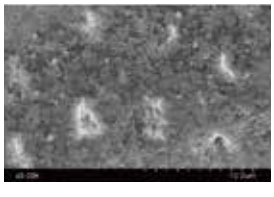
※塗布・写真撮影：大阪歯科大学口腔病理学講座
※牛歯 / 5,000 倍 SEM 画像



塗布前



塗布 3 回



ブラッシング後



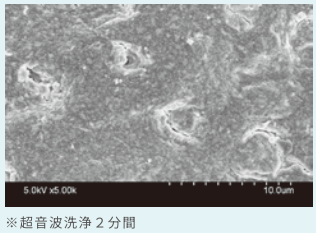
〈測定条件〉牛歯を使用した実験データ
※ブラッシングは 1 往復のストロークで 1 回とし、水洗時の水温は 37 度を条件。
※臨床で使用する際は、経過日数や口腔内の状況によって個人差が生じます。

※ブラッシング 20 回・水洗 30 秒

（塗布・写真撮影：大阪歯科大学口腔病理学講座）

POINT

超音波洗浄後



※超音波洗浄 2 分間

生体適合性

生体適合性があるという論文が発表されました。

フォース デンティンを添加した培地で
歯髄や歯周組織の細胞の培養を 14 日間の培養を行い、
生 / 死細胞染色を行ったところ、
生細胞（緑色）のみが観察されました。

引用文献：Sealing Property of Dentin Tubules by A New Hypersensitivity Control Material and Its Effect on Human Cultured Cells

（写真提供：大阪歯科大学口腔病理学講座）



（ヒト乳歯由来歯髄線維芽細胞）



（ヒト歯根膜線維芽細胞）



（ヒト骨芽細胞）